



第1回長野市スポーツを軸としたまちづくりのための 政策懇話会（R7.8.4開催）

意見交換用資料

FEEL NAGANO, BE NATURAL

この街で、わたしらしく生きる。長野市

R7.8
スポーツ部スポーツ課

3つの構成要素と中核的な施策

推進中の3つの構成要素の中で、①飯綱高原の特性を活かした合宿誘致、②ビッグハットを核とした東口エリアの活性化、③南長野運動公園の利活用と新たなコミュニティの形成 を中核的な施策と位置付け、スポーツを軸としたまちづくりをさらに加速させていく

3つの構成要素

中核的な施策

合宿や大会誘致等、スポーツと観光の融合による地域活性化策

① 飯綱高原の特性を活かした合宿等の誘致

- ・旧飯綱高原スキー場の敷地（駐車場や関連施設）を活用し、**域外からの観光客を誘引する方策として、スポーツツーリズム（スポーツ合宿・大会の誘致）を推進し**、来訪者による宿泊・飲食・交通等の効果に加えて観光やシティプロモーションの効果も狙い、**「スポーツの産業化」を目指す**

大規模スポーツ施設等の価値最大化に向けた利活用のあり方・方針

② ビッグハットを核とした東口エリアの活性化

- ・長野駅東口エリアに、ビッグハットを核とした人の流れ・賑わいを創出し、本市が長年にわたって行ってきた長野駅周辺第二土地区画整理事業を将来に活かした、新しいまちづくりを行う

社会課題の解決と地域活性化に向けたプロスポーツチームとの共創施策

③ 南長野運動公園の利活用と新たなコミュニティの形成

- ・パルセイロをハブとした長野Uスタジアム、南長野フットボール場の活用、社会価値創出
- ・南長野運動公園を集客の軸にするため、**南長野フットボール場の国スポ後の利用やネーミングライツ獲得、飯綱エリアと連携した合宿拠点化**の方針策定を行うと同時に、新たな産業立地施策との連携についても併せて検討していく

長野市におけるスポーツ × まちづくり全体像



1. 飯綱高原の特性を活かした合宿等の誘致

旧飯綱高原スキー場の敷地（駐車場や関連施設）を活用し、域外から観光客を誘引する方策として“スポーツツーリズム（スポーツ合宿・大会の誘致）”を推進し、来訪者による宿泊・飲食・交通等の効果に加えて、観光やシティプロモーションの効果も狙い、「スポーツの産業化」を目指す。
なお、直近では、合宿拠点化のシンボリック的位置付けとしてプロサッカーチーム誘致を主軸に推進する想定。

背景・目的・取組概要

具体取組のイメージ

背景

- 2020年の飯綱高原スキー場の営業終了によって失われた飯綱高原エリアの賑わいを再度もたすための施策検討が必要であり、近年の酷暑化や**国内プロサッカーのシーズン移行**（秋春制※26-27シーズン以降）に伴い、夏の合宿地として冷涼地での合宿需要が高まっている中で**飯綱高原スキー場跡地を有効活用**できる可能性がある。

目的

- 既に整備済みの天然芝グラウンド1面に加え、旧飯綱高原スキー場の敷地（駐車場や関連施設）を活用し、**域外からの観光客を誘引する方策として、スポーツツーリズム（スポーツ合宿・大会の誘致）を推進し**、来訪者による宿泊・飲食・交通等の効果に加えて観光やシティプロモーションの効果も狙い、「**スポーツの産業化**」を目指す。
- Jリーグクラブの誘致、および**ユース、学生、周辺広域の子供など幅広い層が使用できる環境を整備し**、地域振興に役立てる。

これまでの取組概要

- スポーツツーリズム・合宿誘致戦略策定に関する調査において、まずは、**近いシーズンにプロ1チーム誘致、その先のシーズン以降には周辺市町村と連携した複数チーム誘致、および周辺地域との観光連携による来訪者の周遊**を見据え、誘致活動に取り組む方向性を導出。
- また、**サッカープロチームが合宿しない期間**に関しては、**他のプロスポーツやアマチュアの合宿・大会での活用や市民が利用**することを想定し、**誘致活動・施設整備**を進める。

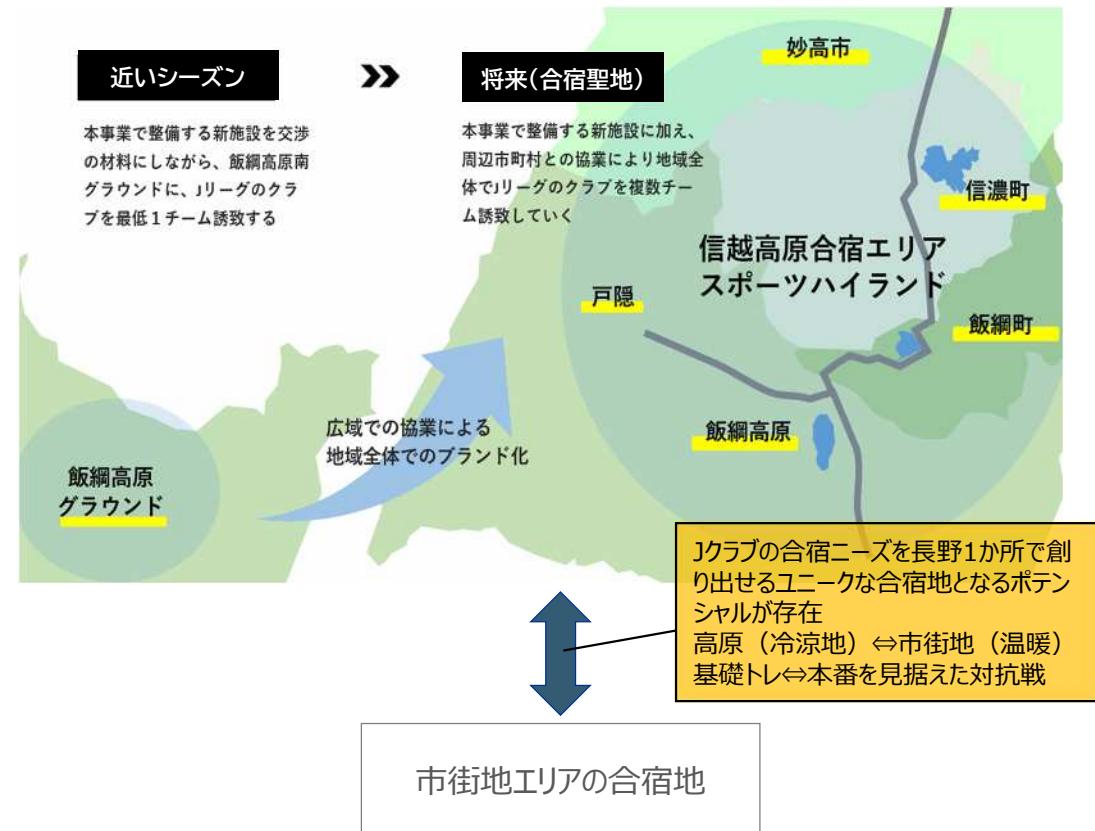
近いシーズン

本事業で整備する新施設を交渉の材料にしながら、飯綱高原南グラウンドに、Jリーグのクラブを最低1チーム誘致する



将来(合宿聖地)

本事業で整備する新施設に加え、周辺市町村との協業により地域全体でJリーグのクラブを複数チーム誘致していく



対象競技の選定

サッカーJリーグが2026年から秋春制に移行するため、長野市の夏場過ごしやすい気候、運動環境としての自然が豊富であるなどの地の利を生かすことでスポーツクラブの合宿誘致を実現できる可能性がある。

Jリーグシーズン



Jリーグチームのキャンプ地（2024年）

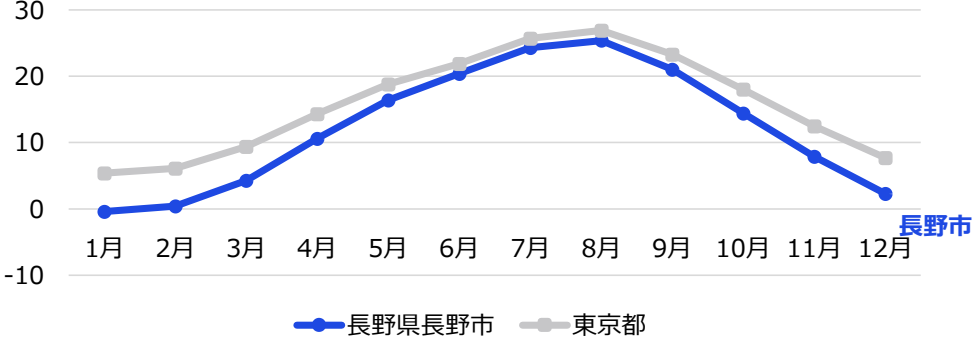
※1軍以下全て含む



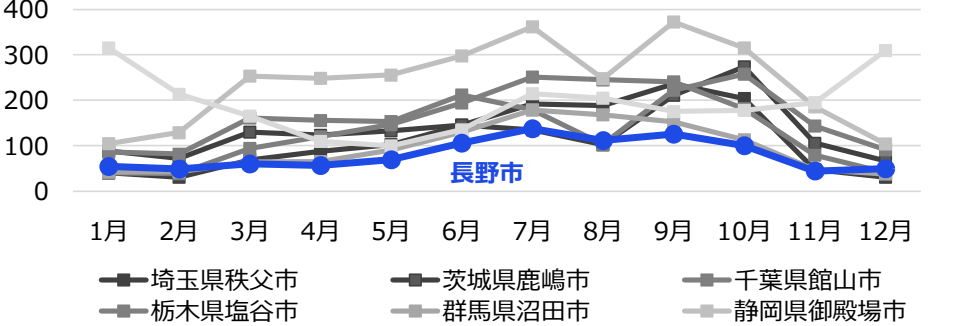
Jリーグの秋春制移行に伴い、沖縄、宮崎、鹿児島を中心とした計60チームのキャンプ地が変更になる可能性あり

出所：各チームウェブサイト

東京と比較すると年中涼しい気候



降水量は1年を通じて少ない



出所：気象庁

(参考) 北海道サッカーキャンプコネクション

コンサドーレが設立した企業「まちのミライ」は、Jリーグチームなどの合宿を誘致する会議体「北海道サッカーキャンプコネクション」を設立し、道内の自治体のクラブ誘致をサポートし、30年までに海外チームを含め60チームの道内誘致、北海道をサッカーキャンプの拠点とすることを目的としている。

北海道サッカーキャンプコネクション



Hokkaido Soccer Camp Connection

2025.4.1 始動

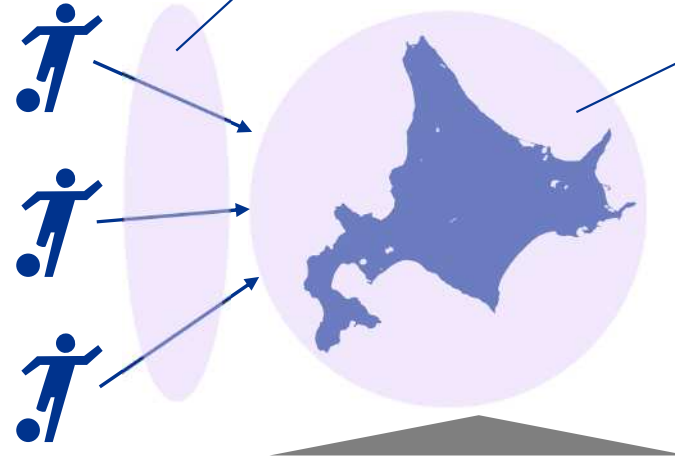
設立背景・概要

- コンサドーレが設立したまちづくり会社、「まちのミライ」は、4月1日、Jリーグチームなどの合宿を誘致する会議体「**北海道サッカーキャンプコネクション**」を設立
- 北海道は、夏季の**平均気温が20～25℃と冷涼**かつ湿度も低く、選手のコンディション維持に最適な環境であり、充実した宿泊・リハビリ施設により、高品質なトレーニングとリフレッシュが可能
- 広大な大自然や豊富な観光資源を活かした**スポーツツーリズムの展開**にも大きな可能性を秘めており、北海道の強みを最大限に活用し、**北海道をサッカーキャンプの新たな拠点として確立**することを目指す
- **自治体や関係団体が連携**し、サッカークラブの受け入れ環境整備とキャンプ誘致を推進するためのプラットフォームであり、北海道をはじめ、札幌市、旭川市、函館市を含む各地域において、**Jリーグクラブや海外クラブのキャンプ誘致に向けた取り組みを進めていき**、30年までに海外チームを含め**60チームの道内誘致**を目標に掲げている

北海道におけるクラブ誘致イメージ

Hokkaido Soccer Camp Connection

窓口を担い、チームの視察対応や日程調整等をサポート



- キャンプ誘致に向けた情報共有と連携強化
- サッカークラブの受け入れ体制の整備
- 周辺自治体との連携促進によるマッチメイク
- キャンプ実施による地域経済・観光の活性化

- 現時点で札幌市や旭川市、網走市などが参加予定であり、道内**35市町村が誘致希望**
- **北海道サッカー協会**も加わり、練習試合での審判、試合相手の手配などで協力

飯綱高原の合宿地としての現状

長野市としてプロチームの要求水準を満たす施設整備、および長野市の強みを生かしたアピールをしながらクラブの誘致に動いていく必要がある。

観点	項目	現状評価と今後の対応	
気温・ 降水量	-	○	スポーツに適した気温（20℃～24℃程度）
	グラウンド環境	△	- 散水機能は全自動ではないため要改修 - チームによってはナイター設備*
トレーニング環境	フィジカル トレーニング環境	△	- グラウンド付近の仮設テント準備対応、ハイランドホール改修 - フリーウェイトマシンの用意、プール施設※チーム依存
	ケア環境	○	ホテル内での一室を活用したマッサージルームの設定
練習後 環境	宿泊環境	△	施設が古く、“質”が懸念点のため要改修
	飲食設備	○	50名程度の収容力 - アスリート用の食事を調理できるスタッフ・食事のウォーマー
	ミーティング施設	○	- プロジェクト投影可能な50名キャバの宴会場等 - プロジェクト投影/画面投影可能な5～10名キャバの施設等

- 飯綱高原南グラウンドは一部施設の改修等対応することによってプロチームの要求水準に達する想定であり、今後要改修
- 誘致対象のプロチームと改修計画について協議し、彼らの要望を計画に反映し、リレーションを築いていく

2.ビッグハットを核とした東口エリアの活性化

ビッグハットを核とした人の流れ、賑わいを創出し、本市が長年にわたって行ってきた長野駅周辺第二土地区画整理事業を将来に活かした新しいまちづくりを行う

背景・目的・これまでの取組概要

背景

- これまで東口エリア開発においては公園整備などハードを中心に実施してきたが、今後はハードを最大限活用した様々なコンテンツにより、東口エリアのまちの賑わいを創出し、エリア一体の活性化を図っていく必要がある。

目的

- 賑わいの中心となることが期待される**ビッグハットを軸に、長野駅からの導線や周辺環境の整備**の検討が主目的となる。
- ＜東口エリアの現況・課題など＞
 - 大規模な区画整理により整備された道路等のインフラ
 - ビッグハット・若里文化ホールの今後の利活用方法
 - 東口の長距離バス、タクシー、一般車両が混雑している
 - 長野赤十字病院の建て替え

これまでの取組概要

- 大規模スポーツ施設等適正評価に関する調査において、**ビッグハットはMICE施設として高エンタメ化**し、経済価値を最大化する施設として活用する方向性を導出。

具体取組のイメージ



活性化の中心となるビッグハットのポテンシャルやアイスリンクの今後について、大規模スポーツ施設等適正評価に関する調査の結果などから検討

大規模スポーツ施設等適正評価に関する調査結果_ビッグハットの概要と課題

長野市の大規模施設の中でも好立地でコンサート・イベントに適した施設であるが、グリーンシーズンの土日は稼働していない日がある且つ、アイスシーズンは市民利用や市民大会など公益性の高いイベントを優先しているため、経済価値の最大化ができていない。

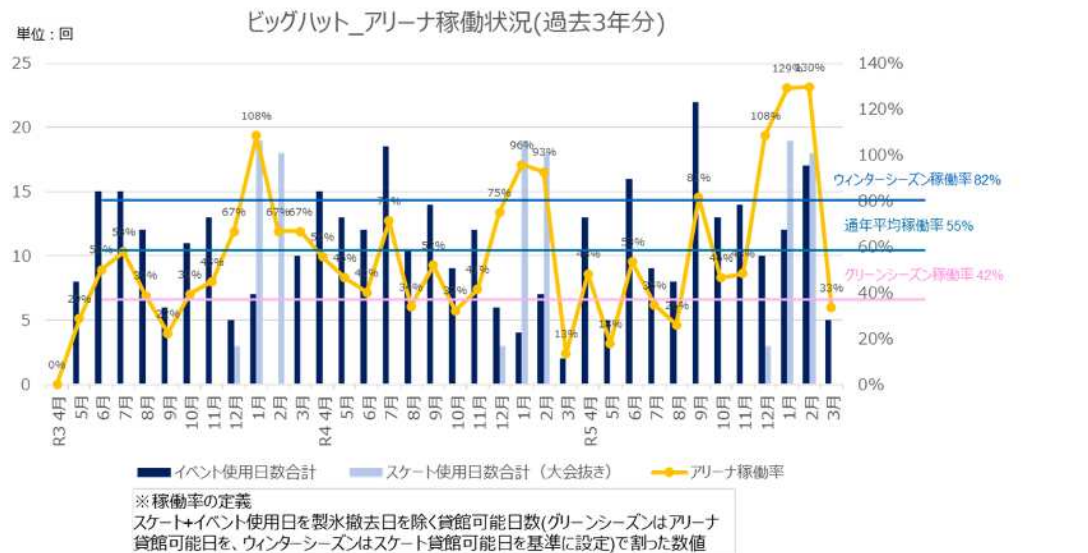
ビッグハットの概要



対象施設の概要	
施設名/竣工	長野市若里多目的スポーツアリーナ(愛称：ビッグハット)/1995年3月
所在地/アクセス	長野県長野市3丁目22番2号 /長野駅からバスで15分、徒歩30分
所有者/運営者	長野市/株式会社エムウェーブ（1998年7月～）
建築面積/延床面積	12,050㎡/25,240㎡
収容人数	5,000人(可動式含め8,000人)
主要用途	- アイスリンクが張られるアイスシーズンと、グリーンシーズンに分けられている。アイスシーズンにおいては全日本フィギュアスケート選手権大会やアイスホッケーの大会などが行われており、グリーンシーズンではコンサートや商業イベントが実施されている。 - アイスシーズン（12月～3月） 第92回全日本フィギュアスケート選手権大会、第44回全国中学校フィギュアスケート大会 等 - グリーンシーズン（4月～11月） Saucy Dog コンサート、ゆず コンサート、信州カーディーラー中古車フェア、東海マーチングコンテスト 等

主な課題

- グリーンシーズン(3月中旬-11月下旬)課題
 - ✓ 土日に非稼働日があり、MICEやコンサートによる収益の最大化に向けた余地がある。
- ウインターシーズン(12月中旬-2月下旬) 課題
 - ✓ グリーンシーズンの倍の稼働率に関わらず、売上額はグリーンシーズンよりも月平均140万程度低い。原因はアイスホッケーの県大会など低単価のスポーツイベントが半数を占めている。(高単価イベントはプロフィギュアスケート大会のみ)。アイスリンクによりコンサートやMICEでの活用ができていないため、機会損失が発生。
 - ✓ 実質2.5か月間しかアイスリンクがなく、フィギュアスケートとアイスホッケーは夏季に練習できない状態。競技者育成・アスリート輩出には施設(通年リンク)の整備が必須。



(参考) SAGAアリーナ事例

本アリーナではMICEコンテンツをハブに域外から人を呼び込み、佐賀市内の活性化を実現。更に佐賀県内の宿泊エリアへの総客で域外の活性化も図っている。

SAGAアリーナがもたらした人流変化と創出効果



佐賀市内への波及

- ✓ スポーツ、学会、音楽等様々なジャンル且つ競争力のあるコンテンツを用意することで県外からの人が流入し、SAGAアリーナを中心とした市内での交流・消費が行われる。
- ✓ アリーナから主要ターミナル駅までの導線は徒歩移動がしやすい設計になっており、サンライズストリート周辺が活性化。

域外（佐賀県内）への波及

- ✓ JR佐賀駅を起点に移動が可能な県内宿泊エリアが設定されており、各エリア毎の受入キャパシティや移動の導線を確保。SAGAアリーナで生まれる人流を県内消費として取り込む体制が整っている。

域内活性化

域外活性化



出所：SAGAアリーナ MICE主催者のみなさまへ<[saga_arena_PDF_6p](#)> / スタジアム・アリーナにおける社会価値活用の手引き / スポーツアリーナの整備を契機としたまちの再生
 画像：SAGA Sports Commission、SAGA SUNRISE PARK、一体感を生む新時代のエンターテインメントアリーナ「SAGAアリーナ」がオープンしました！ | スポーツマニア、NiziU、2度目となる全国ツアーが佐賀県・SAGAアリーナで開幕 最新アルバムからリード曲「COCONUT」や初のドラマ主題歌「LOOK AT ME」などをパフォーマンス | SPICE - エンタメ特化型情報メディア スパイス、九州理学療法士学会大会<[a1006b742e12527797e903b014141551.pdf](#)>

3.南長野運動公園の利活用と新たなコミュニティの形成

パルセイロをハブとした南長野フットボール場(国スポ後利用、以下「FBF」)と長野Uスタジアム(以下「ウスタ」)など南長野運動公園の活用や、産業立地施策との連携により公園エリアを中心に経済・社会価値の創出を行い、南長野一体の活性化を目指していく。

背景・目的・これまでの取組概要

背景

- AC長野パルセイロのホームスタジアム:長野Uスタジアムがある南長野運動公園では、2028年の国民スポーツ大会に向けて、天然芝1面、人工芝2面のフットボール場の建設が進められており、**今後、これらの施設を有効に活用し、スポーツ振興だけでなく篠ノ井、川中島、松代という南長野エリアの活性化を図ること**などを検討していく。

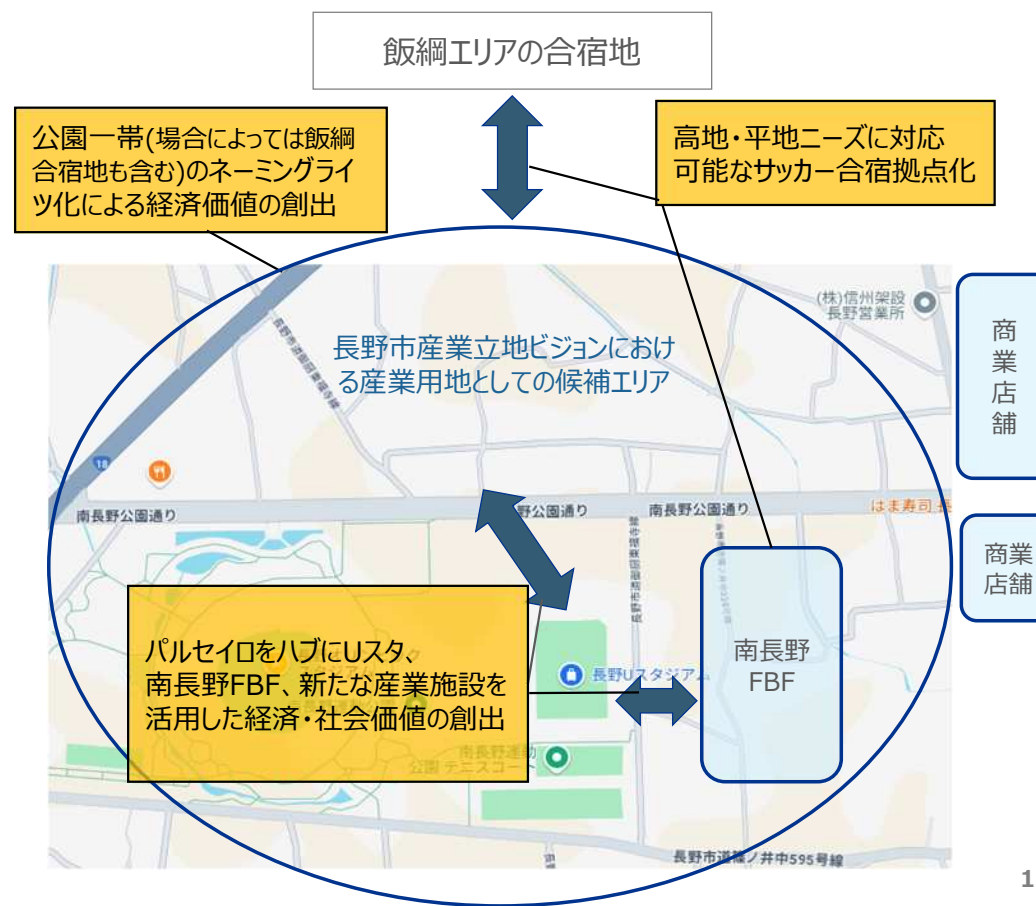
目的

- 南長野運動公園を集客等地域活性化の軸にするため、**南長野FBFの国スポ後の利用や、ネーミングライツ獲得、飯綱エリアと連携した合宿拠点化の方針策定**を行うと同時に、産業立地施策との連携についても併せて検討していく。

これまでの取組概要

- 大規模スポーツ施設等適正評価に関する調査において、各施設の持つ価値を評価する中で、南長野運動公園に関しては、市民の健康促進、防災、教育等の社会価値を中心とした活用の方向性を整理した。一方、パルセイロ側の南長野FBF活用方法(クラブハウス建設、サッカーイベント開催等)を整理したうえで、今後は両社の思い描く方向性の合意形成が必要。また、新キャンプ地(FBFでの練習+ウスタでの対抗試合)として活用も検討していく想定。

具体取組のイメージ



(参考)南長野フットボール場のイメージ図



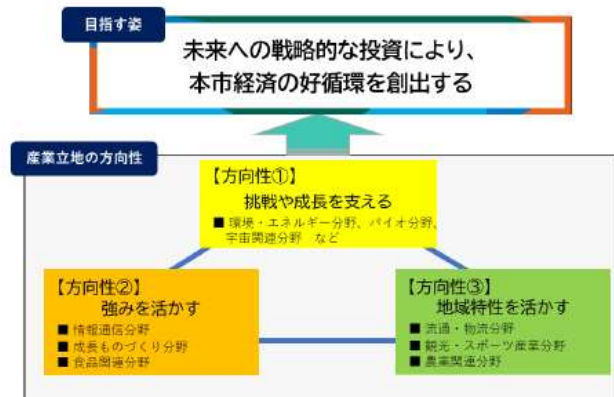
出所：(仮称)南長野運動公園フットボール場整備事業説明会資料<<https://www.city.nagano.nagano.jp/documents/5598/jigyouseitumeikai.pdf>>

(参考)産業立地ビジョンと今後の論点

本ビジョンは、産業用地の確保による本市経済基盤強化及び持続的な発展を目指すものである。中でも南長野運動公園北一帯は産業団地開発候補エリアと位置づけられており、今後の論点としてはビジョン実現に向けた戦略策定が主となる。

長野市産業における課題と産業立地ビジョンの狙い

- 本市では若い世代の流出が顕著で、人手不足が企業経営上の大きな課題となっているほか、**産業用地不足による市内企業流出、市外企業の誘致機会の逸失が起きている。**
- 産業立地の推進により**企業の拡大・成長や産業の新陳代謝を促し**、魅力ある働く場の創出や市民所得の向上によって**経済の基盤強化及び持続的な発展**、人を呼び込むことで**都市の活力向上を目指す。**



⑧南長野運動公園北一帯エリア

(作成) 長野市 経済産業振興部

南長野運動公園北一体エリアの現状整理内容と今後の論点

- 本ビジョンでは8つの産業団地開発候補エリアを選定*1
- 中でも**本テーマと関わりがあるのは⑧南長野運動公園北一体エリア**

*1産業用地の選定基準は以下の通り
①外形的要因 (1.平坦地、2.交通アクセスが良好、3.災害の危険性が低い、4.国有林・保有害林を除く)
②事業性 (概ね20haの確保可否)
③既存インフラ等の活用 (交通の利便性や特筆すべき施設との近接性)

候補エリア

- ① 豊野地区蟹沢エリア
- ② 若槻地区田子池南エリア
- ③ 古里地区北部幹線周辺エリア
- ④ 更北地区更北分署周辺エリア
- ⑤ 篠ノ井地区小松原エリア
- ⑥ JR 今井駅西一帯エリア
- ⑦ 若穂スマートインターチェンジ周辺エリア
- ⑧ **南長野運動公園北一帯エリア**

【本エリアの特色】

(産業立地ビジョンより抜粋)

- 長野ICから約4kmという交通利便性
- 国道18号線の西側一部準工業地域という既存産業地盤の存在
- スポーツを軸としたまちづくりにおける拠点施設である南長野運動公園の存在

【本エリアへ期待すること】

プロスポーツの試合や各種イベントが開催され、市民をはじめ交流人口の利用が見込まれ、公園との連携した一体的な活用施策による新たな価値の創出を期待。

今後の 論点

- 産業立地ビジョン(南長野運動公園北一体エリア)を実現するため、**どのような戦略が必要となるのか？(全体戦略)**
- 集客のカギとなる南長野運動公園において、**どのような価値をどのように生み出していくのか？(チーム、施設、コンテンツ…)**